

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書1章6~13節>

6~8、9~11、12~13節、それぞれから教えられること。

①真の光はイエス・キリストのみ！

突然バプテスマのヨハネのことについて語り出され、驚かされます。しかし読んで行くと、やはり、真の光であるイエス・キリストが大事なのだ、と言いたいことが分かります。ヨハネ福音書では、「洗礼者（バプテスマの）ヨハネ」という言い方は出て来ません。あくまでイエス・キリストを指し示す役割を与えられた人ヨハネです。イエス様の重要性を、他の誰かと比べてどちらを取るか程度にしか思っていないのではないかと。私たちにも問われています。（カラバッジョの絵が拒まれた理由）

②神様を不要と思い、避けていた私たち。神様はそうでなかったのに！

「言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった」（10-11）。難解な表現ですね。私たち人間のこと、しかもイエス様を受け入れようとしない人間を表す「世」という印象的な表現が繰り返されています。ここで福音書記者ヨハネが言おうとしていることは、私たちはイエス様によって私たちの所に来て下さった神様を受け入れようとしない者たちなのだ、ということです。なぜなのでしょう？ 「神無しで自分は生きていける」、聖書全体から伝わって来る人間の姿です。しかし、それでは傲慢になる、あるいは行き詰まって不安の中に置かれる、それもまた聖書が語りかける人間の姿です。だからこそ、福音書記者ヨハネは、「この道を神様は与えて下さった」、と次のことを語るのです。

③誰でも新たに生まれ直すことができる！（3:3）この神様によって！

先週、ヨハネ福音書の出だし「初めに言があった」（1:1）は創世記の出だしを意識していると言いました。それは言い換えると、福音書記者ヨハネは「神様はイエス様によって新しい創造をされたのだ」と言おうとしているのだ、ということです。「言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の資格を与えた。この人々は、… 神によって生まれたのである」（12-13）。神様が与えて下さったイエス・キリストを信じて生き出す時に、私たちはどんな過去を持っていても、「神によって新たに生まれた」者として歩める人生が待っているのです！